

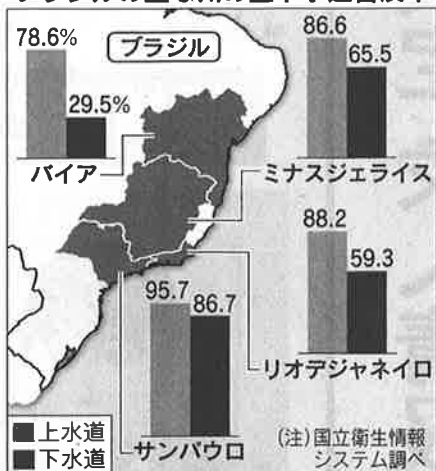
ブラジルでは、2011年に都市省環境衛生局が国家基礎衛生計画を定め、上下水道接続率を今後20年間で100%にする目標を設けている。ブラジルは計画の発表以前から、経済成長を実現するためのインフラ投資計画として07年から10年までの「成長加速計画（PAC）」の策定・実行を

ブラジル、上下水道整備進む

日本総合研究所 総合研究部門
アソシエイトディレクター

段野 孝一郎氏

ブラジルの主な州の上下水道普及率



高度処理導入の動き

続けてきた。

国家基礎衛生計画の発表以降は公衆衛生分野への投資に重点を移すようになり、11～14年の「成長加速計画2（PAC 礎インフラの整備と並行

2」では、水セクターに330億ル（約1兆5000億円）を投じている。サッカーのワールドカップ（W杯）向けの基礎インフラの整備と並行

水道サービスの提供は基礎自治体の責任において実施されるべきだ」と規定された。

調達法が課せられる。同法は調達価格の安さを重視するため、現地の水道事業者が発注する事業体に日本企業が参入する機会とは限定的だった。

ブラジルの上下水道サービスを①自治体による直接供給②地域・州の事業体への権限移譲による間接供給③民間企業への運営権売却（コンセッション）による間接供給という3つのパターンで提供されている。

日本と同じく、公共事業としての側面が強い。憲法では「市民への上下水道サービスの提供は基礎自治体の責任において実施されるべきだ」と規定された。

日本と同じく、公共事業としての側面が強い。憲法では「市民への上下水道サービスの提供は基礎自治体の責任において実施されるべきだ」と規定された。

日本勢、総コストで優位に

（PPP）が普及してきている。たのも追い風だ。

民間活用型の案件では、事業運営者が投資収益を最大化するために運営・維持管理コストを重視する傾向がある。導入コストは高いものの、維持管理などライフサイクルコストで優位に立つ日本製品に採用機会が生まれる。

ブラジルの上下水道市場の特徴として、地域間での利用可能な水資源賦存量（ふぞん）に大きな差があることが挙げられる。アマゾン川流域では雨量を反映し水資源が豊富だが、州外に水資源が流出しやすい地形のサンパウロ州では大きく不足となるだろう。